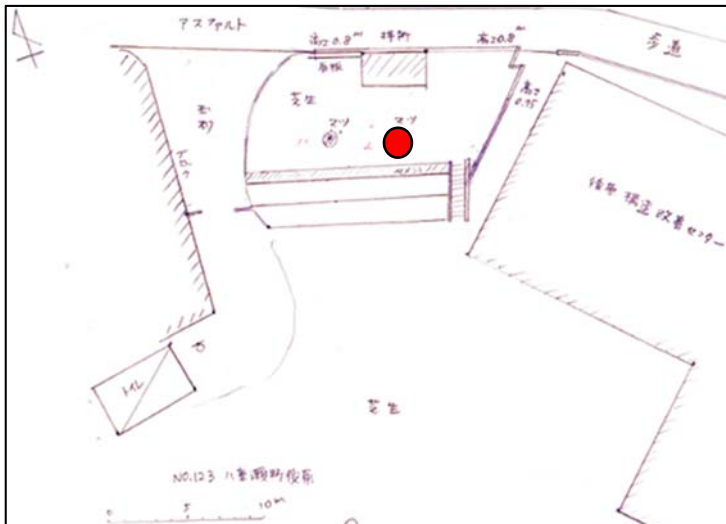


後原の二本松(東)



認定番号 123-1

樹種名	リュウキュウマツ	科名	マツ科	方言名	マーチ	学名	<i>Pinus luchuensis</i> Mayr					
形状・寸法	樹高 10.4 m	胸高周囲 2.2 m	根周囲 2.5 m	樹幹占有面積 130.6 m ²								
	枝下高 4.1 m	枝張 東 1.5 m 西 10 m 南 5.3 m 北 9 m	最大樹冠幅 14.3 m									
通称	後原の二本松			樹齢	100年(推定)							
所在地	八重瀬町字後原523(公民館敷地内)			所有者	1 国 2 県 3 市町村 ④ その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考: 後原自治会							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 ④ 公共施設 5 学校 6 神社寺院 ⑦ 洋所 8 市街地 9 街路 10 その他			状況	① 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 ⑦ その他 8 なし			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 ④ 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			(最寄りの7メダスタータ)	平均気温(°C)	15.3	16.1	16.7	19.1	21.9	25.2	
	土地傾斜				降水(mm)	42.5	268.5	220.0	105.0	416.5	346.5	
土地傾斜	1 平坦(0~5°) ② 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			2014年	平均風速	5.9	6.1	6.0	5.4	4.9	4.0	
	土壌				風向	N	N	N	E	ESE	N	
基岩・母材	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 (石灰岩上)			地点: 系数	平均気温(°C)	27.4	27.0	26.8	23.4	20.6	15.6	
	地形				降水(mm)	280.5	197.0	87.0	168.0	77.0	94.0	
管理状況	1 山地 ② 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪 窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			潮風の影響	平均風速	5.9	4.1	4.2	7.7	6.2	6.8	
	土性				年平均気温	21.3 °C		最高気温	32.6 °C			
根元及び周囲の植生	1 砂壤土: 大部分が砂で僅かに粘土を感じる ② 壤土: 砂と粘土が半々 3 埴壤土: 大部分粘土で僅かに砂を感じる ④ 埴土: ほとんど砂を感じない			日照条件	年降水量	2302.5 mm		最低気温	9.1 °C			
	周辺樹木との関係				1 なし ② ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)	周辺樹木の状況	① ① 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良 ① ① なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況)) 1 土壌の固結がなくきわめて良好 ② 固結はあまりなく概ね良好 ③ 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし					

管理状況	1 柵 a 有 ② 無 (有の場合の高さ m、材質 () 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 ② 無 3 剪定 a 強 b 弱 ③ 無 ④ 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 ② 無 7 避雷針 a 有 ② 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他 マツクイ虫予防として樹幹注入剤、シロアリ予防としてベイト剤を施用。											
過去の治療歴と内容												
故事来歴	1 無 ② 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明											
視認性	① 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)											
特記事項	1 動物生息 a 有 ② 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 ② 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 生徒・父兄等											

地上部の衰退度判定（認定番号123-1）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.36

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

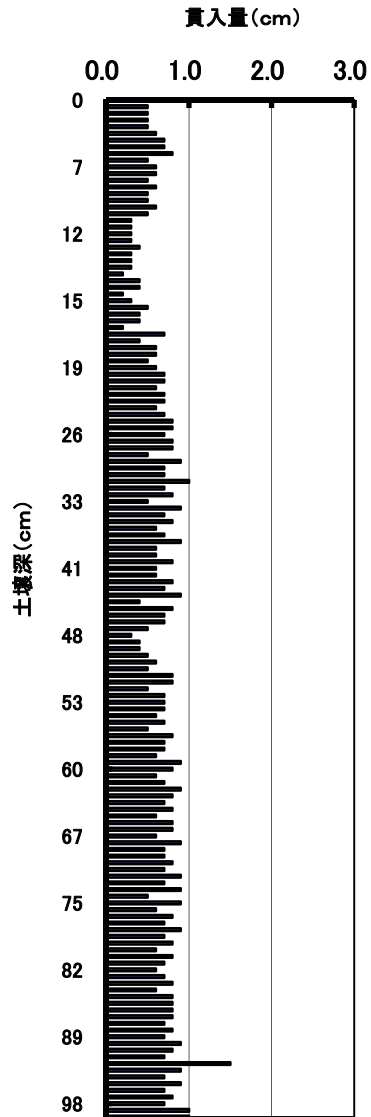
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○		
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ				○
中・小枝落下				○
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壤調査結果 (認定番号 123-1)

層位	土壌色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)	備考
I	7.5YR5/4	0-16	粒状	埴壤土	8.0	1.0	客土
II	2.5YR4/3	16-	—	壤土			

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	・踏圧により土壌の固結が著しい。	・エアレーションの実施、立ち入り制限を検討する。 ・土壌改良を検討する。方法として、穴に完熟堆肥を投入し坪状に数箇所ずつ、数年をかけて緩やかに行うことが望ましい。
	・シロアリ防除剤(ベイト剤)が施用されている。	・継続実施を検討する。
根	・露出根があり、踏みつけにより樹皮に欠損が見られる。 ・地際に鋼棒貫入異常は無く腐朽は認められない。	・露出根の保護を検討する。
幹	・東面地上高 20~120cm の位置に大幅 35cm の、その上方 220cm に縦 7cm 横 7cm、230cm の位置に縦 7cm 横 5cm の傷があり、いずれもモルタルで塞がれている。大きな傷の施術は良好である。	・最も高い位置のモルタルは浮き出て隙間が生じているので再施術を行うことが望ましい。
	・マツ材線虫病予防の樹幹注入が施されている。	・継続実施することが望ましい。
枝	・東側に大きく張り出した一次枝は枯死。西側の太枝も枯死。 ・中小枝の枯れが多い。特に枝端に目立つ。強風により落下する可能性が高いと考えられる。	・両枝とも切除、切り口に殺菌癒合剤の塗布を検討する。 ・除去を検討する。
葉	・先端に勢いが無い。	・無し
備考	・樹勢の衰えが見られる。	

